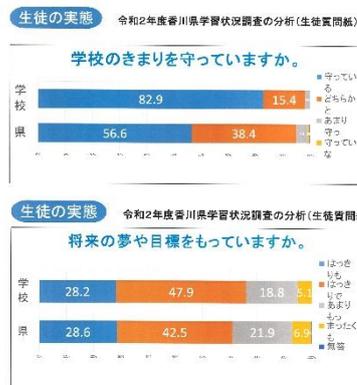


1 研究主題

**未来をみつめ、自己の生き方を主体的に選択できる生徒の育成
～未来・地域・なかまを拓く～**

2 研究主題設定の理由

令和2年度香川県学習状況調査、生徒質問紙の中の「学校のきまりを守っていますか」という問については82.9%の生徒が守っているという肯定的な回答をした一方、「将来の夢や目標をもっていますか」という質問についてははっきりと持っていると思われた生徒は28.2%だった。また校内で教職員を対象に実施したアンケート結果から以下のような意見が多く見られた。



- ①教師主体で動くことが多く、生徒が指示を待つだけで主体的に行動できる生徒が少ない。
- ②素直で教員の指示を聞いて動くことができているが、自分で考えて動いたり新しい発想を出したりする力は十分でない。
- ③人間関係が幼い頃から固定化されているため、よりよい人間関係を形成しようという気持ちあまり感じられない。

以上のことから自らの将来を主体的に考え、校内や地域の方々と協力しながら行動できる生徒の育成を目指し、上記の研究主題を作成した。

3 研究の方法・具体

(1) 3つのプロジェクトの構成

教育活動を『未来を拓く』『地域を拓く』『なかまと拓く』の3つのプロジェクトに分け、それぞれの分野で研究をしていくことにした。

研究内容及び方法	研究プロジェクト
未来を拓く(自己理解・自己管理能力・キャリアプランニング能力) ・自己の在り方・生き方をみつめ、よりよく生きようとする。 ・自分のよさや個性を確信し、よりよい選択をする。	
地域を拓く(社会形成能力・課題対応能力) ・多様な他者の考えや立場を理解する。 ・自分の役割を果たし、他者と協力する。 ・地域・社会の持つ課題を発見・解決しようとする。	
なかまと拓く(人間関係能力・課題対応能力) ・よりよい生活を目指して自ら課題を見いだす。 ・課題解決に向けて主体的に行動しようとする。 ・合意形成を図ったり、意思決定をしたりして課題を解決する。	

(2) 生徒・教職員へのアンケートの実施

- ・各学期、行事ごとに実施する。
- ・アンケートごとの変容をみて、今後の教育活動につなげる。

(3) 各教科全般を用いた教育活動の実施

- ・各教科において課題解決能力の育成を目的とした授業の実施

(4) 見通しをもった研究体制づくり

①令和4年度の研究発表に向けた研究体制



②校内研修

- ・プロジェクトチーフ会
- ・プロジェクト毎の打ち合わせ
- ・外部講師からの指導